



北海道をスポーツでブランディングする

# 北海道スポーツ観光連絡会議

*Promoting Hokkaido through sports.*

“観るスポーツ”、“するスポーツ”だけでなく、“支えるスポーツ”を加えた3分類

## 「観るスポーツ」と観光

アウェーの野球観戦者が周辺地の観光を楽しみ、また観光客が滞在プランの一つとして野球観戦も加えることで、旅そのものの充実のほか、プロ野球の振興、そして地域活性化を目指す。

## 「するスポーツ」と観光

市民マラソン参加者が応援の家族と共に周辺地域の観光を楽しみ、また観光客が入浴前の一汗としてテニス等に勤しむことにより、旅そのものの充実のほか、健康の増進、スポーツ施設の有効利用、スポーツ用品・ファッションの需要喚起、そして地域活性化を目指す。

## 「支えるスポーツ」と観光

スポーツチームの地域経営や市民ボランティアとしての大会支援、地域や国を挙げての国際競技大会・キャンプ（スポーツ合宿）の誘致により、交流人口の拡大、地域活性化、地域・国の観光魅力の効果的発信を目指す。

H22年5月18日 第1回スポーツ・ツーリズム推進連絡会議 開催

4つのワーキング・グループ設置

報告

スポーツツアー造成WG

チケット改善WG

国際化・国際交流推進WG

施設魅力化・まちづくりWG

H22年6月25日 第2回会議 開催

4つのワーキング・グループ開催

報告

H22年7月 第3回会議 開催

課題を抽出して  
解決方策を提案

実証実験・予算要求へ

## 目的: スポーツと観光の連携による 地域振興

- 機能
- (1) スポーツ観光に関心がある団体・個人等のネットワーク化
  - (2) 北海道におけるスポーツ観光に関する情報共有、情報発信
  - (3) 北海道におけるスポーツ観光の振興にかかる機運醸成
  - (4) スポーツ観光を振興する民間組織の応援
  - (5) スポーツ・ツーリズム推進連絡会議(観光庁主催)の北海道における対応窓口
  - (6) その他、スポーツ観光の振興に関すること

- 手段
- (1) メールによる登録者間の情報展開
  - (2) 調査分析
  - (3) 年2回の連絡会議開催

次回は、ウインター・シーズン前に開催予定

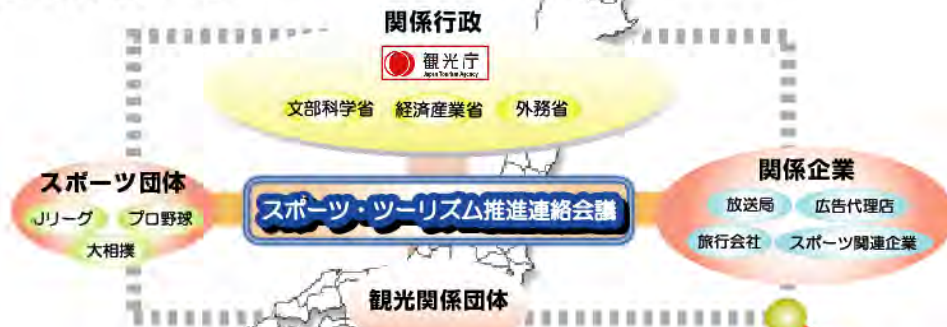
### 観光庁とは異なる 北海道会議の目的

情報共有を第一とし、地域振興のために従来の枠組みを超えた連携体制を構築

# スポーツ・ツーリズム推進体制

● **趣旨** 北海道の豊富なスポーツ資源を最大限に活用し、インバウンド拡大および国内観光振興を図るため観光客によるスポーツ観戦、スポーツイベント参加、スポーツ観戦客・参加者による観光旅行の双方が推進され、活性化するよう、国レベル→道内観光関係者、スポーツ関係者、自治体が密接に連携協力しスポーツ観光を総合的に振興する。

## ● 日本レベルの行政組織 H22.5.18開催



## ● 都道府県レベルの行政組織 H22.6.25開催



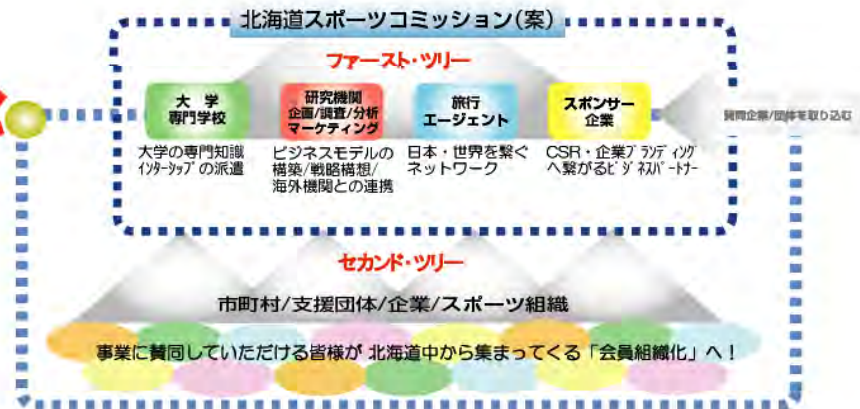
人が集まれば、関連する様々な経済効果が期待できる

- ・移動 ・宿泊 ・飲食 ・物産販売 ・観光地への入込
- ・地域交流の仕掛け ・おもてなし精神 ・地域PR活動
- ・着地型ツアー ・体験ツアー ・北海道ブランド
- ・名物PR

## ● 地方レベルの民間組織 H22年内設立に向けて調整中

「北海道スポーツコミッション」は、各専門知識の有志の集合体として設立いたします。

※将来、一般社団法人化することでより公益性な組織として地域と連携して行く



### ■ ミッション (案)

- 北海道を、魅力あるスポーツツーリズムの目的地として確立する
- スポーツツーリズム産業のイメージと姿を確固たるものにする
- ネットワーク作り、教育・交流事業を促進する
- スポーツ産業に関連するツールの開発および促進
- 個人・団体からスポーツツーリズムへの投資を構築
- スポーツツーリズム産業の調査・データ収集をコーディネートする